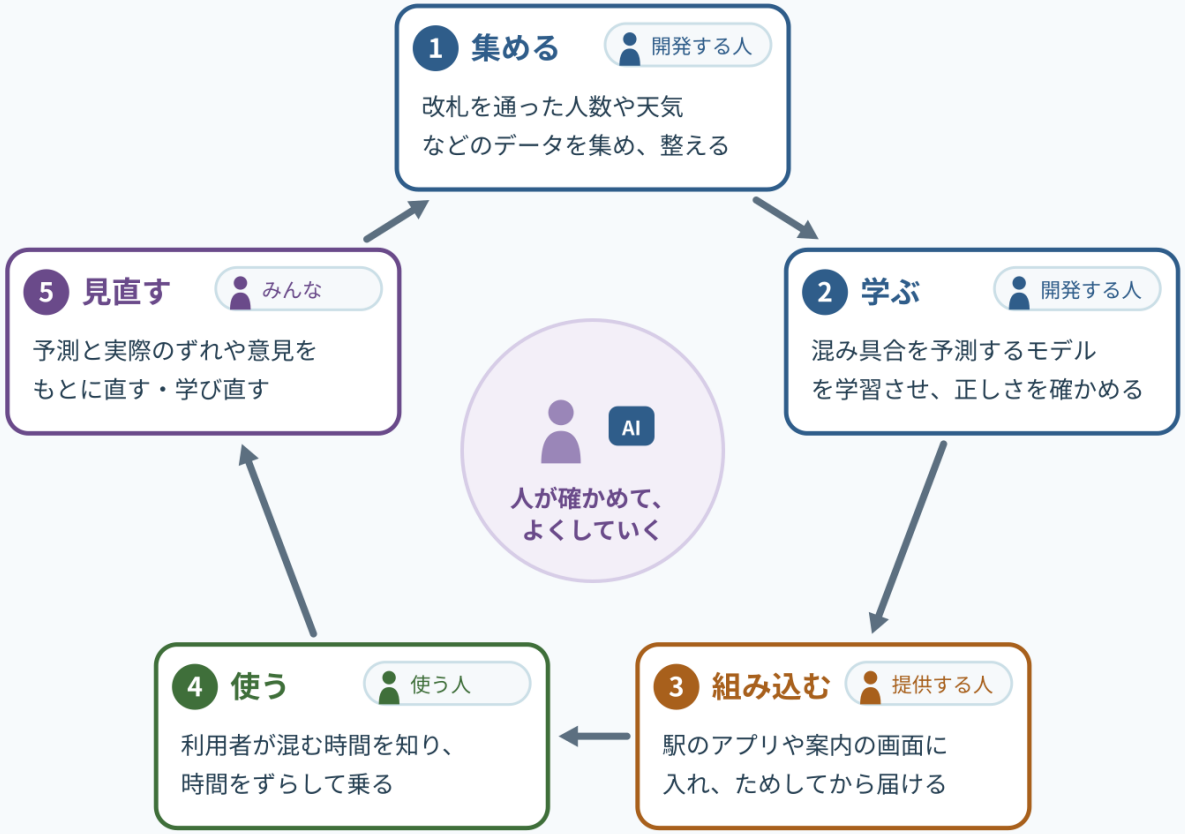
AIを組み込んだしくみができるまで（5つの段階）

AIを使ったしくみは、どのようにつくられ、育てられていくのだろう

例：駅の混み具合を予測して知らせるしくみ（架空）



関わる人と、主な役割

AIを開発する人
データを集めてモデルをつくり、確かめる

AIを提供する人
製品やサービスに組み込んで届け、動きを見守る

AIを使う人
決められた目的で正しく使い、気づいたことを伝える

※ 同じ人や会社が、いくつかの役割をかねることもある

一度つくって終わりではない

- まわりの様子が変わると、合わなくなることがある。見直しを続ける
- いろいろな立場の人が関わって、AIとほかの技術を組み合わせ、しくみをつくる
- 気づいたことを伝える場があると、よくなる

※ 例は架空。段階の分け方は、わかりやすくした例（実際はもっと細かく分かれる）。